

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立 松江中学校
(令和5年2月21日作成)

1 学校教育目標			
ま	学ぶ意欲のある生徒	(かしこく)	知
つ	強い心と体をもつ生徒	(たくましく)	徳・体
え	笑顔あふれる生徒	(あたたかく)	和・輪
2 重点目標・努力目標		3 前年度の成果と課題	
1	教師一人一人の授業力の向上<子どもの魂を揺さぶり、興味・関心を高める工夫、読解力の向上、思考力・判断力・表現力の育成>	○学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進され一定の成果を上げることができた。	
2	集団生活を通じた豊かな人間性の育成<子どもが主体となった学校行事の推進・生徒会活動・専門委員会活動の充実・「感謝・敬愛・礼儀・正義・自律・努力」の心の育成>	○生徒指導上の様々な問題に対し、職員一人一人の共通理解と組織的対応により、粘り強く指導し、改善が図られた。	
3	共感的な人間関係の育成<生徒指導・教育相談体制・道徳授業の充実・特別支援教育の充実・いのちを大切にす教育の充実>	○幼保小中を一貫した教育の取組においては、【推進するためにふさわしい組織】や【15年間を通じた教育課程の編成】ができ、また【目指す子ども像の共有】が図れ、成果をあげることができた。	
4	教育環境の整備(ユニバーサルデザインの考え方)<子どもの自己存在感が感じられる教室掲示の工夫・読書に親しむ環境の充実>	●学力向上及び今年度の発表に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導法の工夫に組織的に取り組み、さらに深めていく。	
5	「主体的・対話的で深い学び」の研究推進(令和5年2月1日の研究発表に向けた稲荷小学校との連携)	●「幼保小中を一貫した教育」に継続して取り組み、生徒の学力向上、及び教員の授業力の向上を図る	
6	松中PRIDEの育成・推進 ①「ありがとう」「ごめんなさい」を言います ②「いじめ」をしません ③心をこめて接します ④卑怯な振る舞いをしません ⑤我慢をします ⑥夢に向かって頑張ります	●不登校や問題行動について、未然防止の観点で環境づくりと積極的な生徒指導を引き続き推進する ●支援が必要な生徒に対して、適切な支援ができる体制を充実させる。 ●全体としては良好であったが、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」、「思いやりの心」、「規範意識(道徳性)」の育成の要望があった。	

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校教育目標や松中PRIDEを意識した教育活動が今年度も進められた。 ○企画委員会、職員会議や各種会議等を適切な時期に適切な内容で行われていた。 ●校務分掌組織の見直しを進めることができたが、まだ改善の余地がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○今年度の「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」に関わる研究発表会(松江中学校区研究発表)への充実した研修を実施することができた。 ○学力向上について、適切に分析の機会を設け、それを基に学年ごとの目標を作成する等効果的な取組ができた。 ●ICT関連の研修をさらに深めていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○コロナ状況が続く中、生徒の健康観察や校内の衛生管理等適切に行うことができた。 ○集会行事においても、コロナ対応に配慮し、適切な形で実施することができた。 ○緊急事態への対応も見直しを図り、避難訓練など工夫して行った(不審者対応など)。 ●災害時の引き取り訓練の準備を行う。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の管理・保護は適切に行われている。 ○点検活動や修繕等、適切に進められた。 ●清掃や美化活動について、決められた自分の役割以外にも積極的に出来るようにしていく必要がある。 ●転入生の接続準備などタブレットの管理について連携を図る必要がある。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりを適宜配布、HPに添付すると共に、HPに更新された情報や日常の様子を掲載し、情報伝達に努めた。 ●学校運営協議会やPTA活動についても少しずつ日常を取り戻しつつあり、今後さらに家庭・地域との連携や地域の人材活用を進めていく必要がある。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○松江中学校区研究発表会への取組を通じて、特に稲荷小学校との連携(小中相互の授業参観や合同研修会、オンライン接続など)を密に行うことができた。 ○本校体育館工事の際に、小学校に協力を頂いた。 ●コロナ禍の中、生徒会や児童会等、児童・生徒の交流を増やしていく必要がある。 ●小学校への乗り入れ授業(理科)について、相互確認の必要性がある。 ●安全教育との関連で、稲荷小学校と引き取り訓練での連携を検討していく必要がある。

(様式2・中学校用②)

草加市立松江中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画を教科会において見直し、目標や方針を確認することができた。 ○授業時間が確保でき、教育課程の編成は概ね適切であった。 ●時程について、改善の余地がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも先生方が板書の工夫やICTの活用等で生徒の関心を高める授業を実施できた。 ○「主体的・対話的で深い学び」の指導法の研究を組織的に行い、研究発表会につなげられた。 ○校内研修を通して、相互授業参観を行い、授業について改善を図ることができた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間においては、ローテーション授業や研究授業を含め様々な取組を実施することができた。 ○授業実践の資料を活用した取組を実践できた。 ●道徳別業の充実を図る必要がある。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した指導計画をもとに、行事計画を見直し、活動の活性化を図ることができた。 ○本部・各専門委員会等、生徒主体の様々な取組を模索することができた。 ●生徒朝会の在り方(実施回数や時期、内容や進め方)について来年度、再検討が必要である。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した全体計画・年間指導計画に基づき、積極的にタブレットを活用した。 ○コロナ禍で実施できなかった1年生の職場体験に準じるような内容を工夫して実践できた。 ●外部の人材・物的資源の活用についてコロナ後のことを考えていかなければならない。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的かつ組織的な指導と素早い初期対応により大きな問題に至る前に問題解決を図ることができた。 ●不登校傾向のある生徒への対応方法の工夫がひつようである。 ●専門委員会の再編成を伴う生徒の自主的な活動の促進を考える必要がある。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートへの取組がよくできた。 ○高校調べや高校の先生によるオンライン説明会(2年)等、コロナ禍でも工夫した取組が行えた。 ●キャリアパスポートの形式を検討する必要がある。 ●職場体験学習の実施(方法)について、その実施有無を踏まえて工夫を考えていかなければならない。

⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な生徒に対して、担任教諭と授業担当教諭が連携して、適切な支援を行うことができた。 ○特別支援学級の円滑な運営を続けることができた。 ●生徒や保護者の一人ひとりの思い・願いを把握した支援を今後も継続していきたい。
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書による図書館だよりや廊下の掲示物などの取組の工夫が見られた。 ●昼休みの貸出や授業での活用など図書館の利用を促す工夫をさらに進めていく必要がある。
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や集会行事、総合的な学習等でICT機器の積極的な活用がなされている。 ●ネットトラブルもあり、情報モラルについての講演会や指導方法の工夫を図る必要がある。 ●ICTを活用した授業をより効果的にできるよう、ICT支援員や先進的な取組を行っている教員を指導者にする等、引き続き研修を推進していく必要がある。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体で、差別を許さない生き方を育て、お互いを認め合う態度を育てることができた。 ●校内研修で適宜取り上げ、教職員の理解を深めると共に指導法の工夫が必要である。

(様式2・中学校用③)

草加市立 松江中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも先生方が板書の工夫やICTの活用等で生徒の関心を高める授業を追求できた。 ○「主体的・対話的で深い学び」の指導法の研究を組織的に行い、研究発表会でその実践内容を公開した。 ○年12回以上の校内研修に努め、相互授業参観を行い、授業改善を図ることができた。 ●補習のあり方を検討する必要がある。 また、定期的に学習に関するアンケートを実施していくこと(「松中PRIDE」のアンケートに合わせる必要がある。)
	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「松中PRIDE」の推進を図ることができた。 ○道徳の時間においては、ローテーション授業や研究授業を含め様々な取組を実施することができた。 ○授業実践の資料を活用した取組が実践された。 ●道徳別業の充実に向けて、道徳関係の研修の機会をより多く設ける必要がある。
	幼保小中を一貫した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小との連携 ・研究発表に向けた取組 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○松江中学校区研究発表会への取組を通じて、特に稲荷小学校との連携(小中相互の授業参観や合同研修会、オンライン接続など)を密に行うことができた。 ○幼保小中連絡協議会等で適宜、各園・各校の情報交換を行うことができた。 ●幼保小との連携をさらに深める必要がある。特に、地震等災害時における引き取り訓練での連携など、今年度行った学習面での協力体制を、分野を広げて行っていく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校教育目標、目指す学校像、特に「松中PRIDE」を意識した教育活動が推進され、一定の成果を上げていると共に、特に学校運営協議委員から「松中PRIDE」の項目に挙げている生徒の規律面での評価をいただいている。
- ・生徒指導上の様々な問題に対して、職員一人一人の共通理解に基づき、積極的かつ組織的な指導と素早い初期対応により問題解決と改善を図ることができた。
- ・幼保小中を一貫した教育の取組については、特に稲荷小と密に連携を取り合い、「自ら学び、共に高め合う児童生徒の育成」に向けて、共通の問題意識の持ち、研究・研修を重ね、草加市教育委員会委嘱の研究発表会で成果と課題を示すことができた。
- ・全体として、どの項目でもB以上の評価を得られ良好であったが、保護者・学校運営協議委員共に、今後力を注いでほしい項目としては、昨年同様「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「思いやりの心」の育成への要望があった。
- ・保護者評価において、生徒の授業内容の理解度について、多少の不安を感じているとの結果が見られた。
- ・「学校・学年だより等での情報伝達」についても概ね良い評価を得ているが、コロナ後の家庭・地域との交流や情報交換について、今後模索していく必要がある。
- ・在校時間80時間以上0名という結果から、働き方改革や超過勤務に対する意識が高まってきている。

6 次年度の改善策

- ・県の学力・学習状況調査において、各学年とも学力の伸びが見られた(研究発表会にてデータを提供)が、依然として改善の余地があることから、今後も学力向上（特に「基礎学力」を中心に）の実現を目指した指導法の工夫や職員研修を組織的に取り組み、さらに発展させていく。
- ・「幼保小中を一貫した教育」に今後も継続して取り組み、生徒の学力向上、及び教員の授業力向上を図る。特に、今年度確立できた稲荷小学校との協力体制を学力以外の分野にも広げてさらに連携を強めていきたい。
- ・不登校生徒への対応の工夫や問題行動について、未然防止の観点から環境づくりと積極的な生徒指導を引き続き推進する。
- ・支援が必要な生徒に対して、適切な支援ができる体制づくりをさらに充実させる。
- ・ネットトラブルや情報モラルについての指導をさらに深めていく必要がある。
- ・ICTの活用について、全教職員でさらに研修を重ね、より実践的かつ効果的な授業実践を行うことができるよう努める。
- ・コロナ後の「開かれた学校づくり」を見据え、学校行事への参加等生徒をともに育てる学校、家庭、地域の連携をさらに強化していく方法を模索し、実践していく。